

高校生からシニアまで世代をこえた仲間で贈るみんなのリーディング いろとりどりのラブレター ～伝えたい、本当のキモチ～

7回目を迎える今回は、多くの読者の共感を得たラブレター集の中から、さらに珠玉のラブレターを厳選しました。オーディションで選ばれた市民のみなさんが、舞台の上から想いの詰まったラブレターを届けます。高校生からシニアまで世代をこえた32人の仲間が、舞台の専門家に支えられ、笑いあり、涙ありの感動の舞台を創り上げます。

- 日時** 12月3日(土) 14:00
- 会場** 芸術創造センター
- 構成・演出** 小田 靖幸
- 講師** 益川 京子
- 料金** 1,000円 (全自由席)
※事業団友の会会員は1割引(前売のみ)
- 助成** 芸術文化振興基金
- 後援** 名古屋市教育委員会
- 問い合わせ** 公益財団法人名古屋市文化振興事業団
TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386



平成22年度「ピノキオの冒険」

練習風景

なごや子どものための巡回劇場(下期)

なごや子どものための巡回劇場は、日ごろ生の舞台に接する機会の少ない子どもたちに、テレビ等では味わえない感動を伝えたいと、昭和55年から始めました。お近くの会場へ、ご家族あるいはお友だち同士で、お気軽にお出かけください。

人形劇団むすび座 天人松の兄ちゃん

2月12日(日) 昭和区役所講堂
2月18日(土) 熱田文化小劇場
2月25日(土) 守山文化小劇場
2月26日(日) 天白文化小劇場
10:30, 14:00(2回公演)

名古屋フィルハーモニー交響楽団 名フィルがやってきた!

3月3日(土) 中川文化小劇場
3月4日(日) 南文化小劇場
11:00, 14:00(2回公演)

フォークグループ鬼剣舞 うたものがたり「あほろくの川だいに」

3月11日(日) 港文化小劇場
3月17日(土) 中村文化小劇場
3月25日(日) 北文化小劇場
3月28日(水) 名東文化小劇場
10:30, 14:00(2回公演)

狂言共同社 これが狂言じゃ!

3月24日(土) 西文化小劇場
3月25日(日) 緑文化小劇場
11:00, 14:00(2回公演)

- 料金** 子ども(3歳以上中学生以下) 500円、おとな 800円
- 主催** なごや子どものための芸術劇場実行委員会(名古屋市、公益財団法人名古屋市文化振興事業団、財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、愛知児童・青少年舞台芸術協会)
- 後援** 名古屋市教育委員会、名古屋市子ども会連合会
- 問い合わせ** 公益財団法人名古屋市文化振興事業団 TEL052-249-9387 FAX052-249-9386

寺井尚子&佐山雅弘 Duo コンサート

しなやかな感性とほとばしる情熱を合わせ持つ、人気No1ジャズ・ヴァイオリニスト 寺井尚子とジャズピアノの大御所 佐山雅弘によるデュオコンサート。クラシックの名曲からジャズスタンダードまで、情熱的な演奏をご堪能ください。

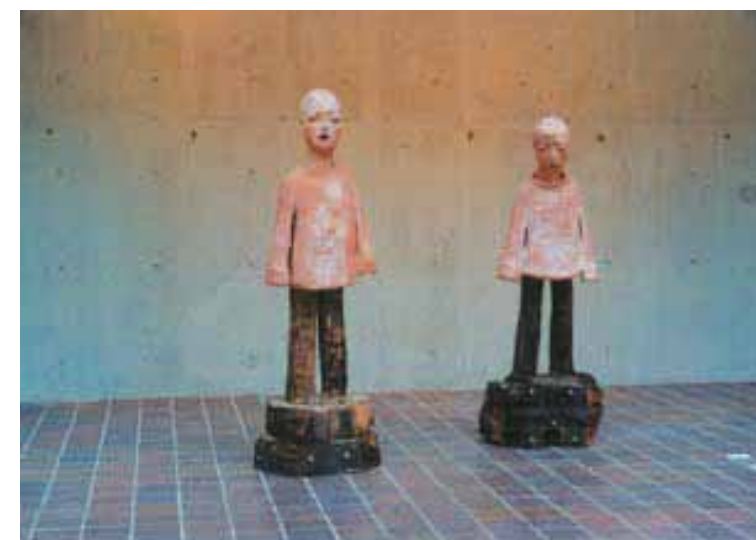
- 日時** 12月12日(月) 18:45
- 会場** 青少年文化センター・アートピアホール [ナディアパーク11F]
- 出演** 寺井尚子(ヴァイオリン)、佐山雅弘(ピアノ)
- 料金** 3,500円 (全指定席)
※事業団友の会会員は3,200円
- 問い合わせ** ナディアパークプレイガイド TEL052-265-2015



photo by ANJU



なごや 文化情報



2011
11
Nov.

NAGOYA Cultural Information No.332

Contents

十一月のうた	2
随想 柴田堂風 (華道家〈小原流〉)	3
視点 現代舞踊家の女性たち まとめ/倉知外子	4
この人と… 久保田 明さん(下) 聞き手/はせひろいち	6
ピックアップ	8
おしらせ	9



表紙

作品

「無題」

(1989年/テラコッタ・枕木)

19歳の頃に作りました。当時、大学生で何を作ってもよいかならぬ悩みながらも体を動かして、精一杯作りました。

森北 伸 (もりきた しん)

1969年 名古屋市生まれ

1992年 愛知県立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業

2008年 第14回 石田財団芸術奨励賞 受賞

2009年 愛知県芸術文化選奨 文化新人賞 受賞

名古屋市芸術奨励賞 受賞

現在、愛知県立芸術大学美術学部准教授

十一月のうた

惜しむ日

宇佐美 孝二

目のまえのしずかな水平線が
立ち上がり夢にでてくる今日
生きて在ることが
生き延びることに変わった明日
元気でね、という挨拶が
永遠を消してしまった明後日

蝉の音が

音のカーテンをつくる樹のしたで
わたしというささくれた木片が

さらに削られる日々

カーテンのすき間から見える波立つ海
つぶやく声が聞こえてくる
もつと手を握り合えばよかった

明日よりも今日

もつと無言で語り合えばよかったと

あの震災の日から初めての夏。どこか私は楽しめませんでした。海を見るのも、山を歩くのも、日々の生活の機微も、被災者の方々への後ろめたさは、どの人にも拭いきれない気持ちではなかったかと思えます。日々はかけがえないもの。震災の後、一層その気持ちは強くなりました。今、手を触れ合う、無言でうなずき合うことだけでもいい。親しい人、周りにいる人、どの人とも、明日、もう会えなくなるかもしれませんから。

(日本現代詩人会員)

随想

花で奏でる立体美いけばな



しばた どうふう

柴田 堂風 (華道家〈小原流〉)

この国に、室町の時代から600年の歴史に渡って伝えられている、いけばな。その時代によって、供花・たてばな・立花・立華・抛入れ花・茶花・文人花・盛花・自由花等と呼ばれ、その形式は置く場所と、いけ方、いける人の思想により変遷してきている。どの時代でもその背景にあるのは、自然美に対する感銘を自分たちの血の中に独自の美意識を持って育てあげ、その心をつくり出してきたことである。

澄みきった空気の中で落葉樹を見つめていると、もの寂しさの中に静かな落ち着きを感じ、細い梢の先には充実した生命の息吹が感じられ、やがて来る発芽を待っているように見える。その枝の姿の中に生命の躍動を見ることができ。

秋の七草の尾花を見てもすすきは『花すすき』とも言われ、初夏の若生(わかばえ)のすすきに対してやがて穂が出て来たすすきは真緒(ますほ)のすすきとも言われる。いけばなは、こうした自然の季節美から受ける感銘と、植物・花自体の持っている色の配色美、形の形態美をそれぞれによく知ることから始まる。

花を楽しむ、その行為を楽しむ、集中した時間を楽しむ、花と向き合った自分を見つめる楽

しさ、花を飾って楽しむ、そして表現としてのいけばなを楽しむ等は、いけばなを楽しむ醍醐味である。

選んだ器に選んだ花で奏でる立体のドラマ。いけばなはセレンナーデのような小品花から、大きな花展会場に展示される大作とさまざまに展開している。また現在は、次々と新しい栽培種の花材が多く氾濫して、人と自然と花との関係がかつてのようにはなっていない。本来のいけばな花材を花屋の店頭で見るとは少ないのが現状である。

花は様々な色彩と形を持っている。その色彩美のハーモニーとコントラストの美しさと花材の持っている形態の変化のおもしろさをとらえて、自分のものとして、季節美・配色美・形態美を備えた立体美としてのいけばな、新たな意識によって伝統美をふまえた中でいけばなを、次の時代の人たちに伝えることが私たちの使命であると感じている今日この頃である。

花より華らしく、 現代舞踊に生きる女性たち

現代舞踊公演「花より華らしく…芸術に生きた女・女・女」が来年3月16日～18日に千種文化小劇場にて、開催される。この市域で活躍中の3人の女性舞踊家が、愛知と名古屋にゆかりのある3人の女性芸術家「花子」「川上貞奴」「三岸節子」をそれぞれ舞台上に甦らせる公演。創作への取り組みや意気込みをインタビューした。（まとめ：倉知外子）

企画の目的

発端は名古屋市文化振興事業団が現代舞踊協会中部支部に、「愛知と名古屋にゆかりのある女性芸術家をテーマに、地元の文化・芸術の礎となった女性を掘り起こし現代舞踊で甦らせたい」と依頼したことに始まる。現代舞踊で歴史的人物をテーマにすることは、あまり多くない。中部支部長の関山三喜夫氏は「現代舞踊は常に新しく自由に創作します。作者の生き様が身体を通して表出されるところに、深い感動を呼びおこします。女性がどのように女性を描くのか、大変興味深い」と期待を寄せる。

その作者は、近藤夕希代さん、倉知可英さん、服部由香里さん。それぞれ【花子】【川上貞奴】【三岸節子】を創作する。公演タイトルは「花より華らしく…芸術に生きた女・女・女」とし、それぞれ花子を「うめ」、川上貞奴を「つばき」、三岸節子を「さくら」と花を重ねイメージの糸口にする。

偉業を成し遂げた先人の女性たち

貞奴と花子は、モダンダンス元祖のイサドラ・ダンカンや新しい舞踊の流れをつくりつつあったロイ・フラーと深い関わりがあった。ロイ・フラーは舞踊家であったが、同時に優れた興行主でもあった。アメリカで一世を風靡していた貞奴をバリーに招聘し興行をさせたり、デンマークで端役をしていた花子を見出し、芸名を「花子」と名づけ、花子一座を巡業させ大成功をおさめた人物。その時代、ヨーロッパは表現の自由の波が湧きおこっていて、ジャポニズムやアバンギャルドの旋風で貞奴と花子は大変な人気だった。現代舞踊（モダンダンス）が日本に渡来する以前に、海を渡って日本の文化を伝え、センセーションを巻きおこした。

三岸節子は、春陽会で「女性として初」入選しデビューして以来、女流画家協会を中心になって設立、「日本人として初めて」ワシントン女性芸術美術館で回顧展が開催されるなど、常に女性画家の第一人者として道を切り開いてきた。どんな苦境でも決して絵筆を折ることなく、力強い作品を発表し続けた。先駆者の偉業に

大きな感銘を覚える。

3人の共通するゆかりと生涯

花子と三岸節子は愛知県で生まれ育ち、貞奴は大人になってから居住し、各自が地元の文化・芸術に大きな足跡を残した。その一部を紹介する。

【花子】1868（明治元）年、愛知県中島郡上祖父江で生まれる。本名は、太田ひさ。4歳で名古屋に出て養子になるが、養父が破産して、旅芸人一座の子役になる。3年後、舞子に売られ芸者になる。1902年デンマークのコペンハーゲンでの興行のため、日本人技芸者の募集で渡欧する。興行終了後も帰国せず踊りや芝居の端役をしているとき



花子（澤田助太郎氏提供）

にロイ・フラーに見出される。ロイ・フラーは花子一座を旗揚げして20年間の滞在中、ヨーロッパ各国の40か所以上で巡業を成功させた。ロダン（フランス）植民地博覧会で花子の演技に接し、モデルを依頼、58体もの花子像を彫った。花子が日本へ持ち帰ることのできた作品は有名な「死の顔 花子」「空想する女 花子」で、今は新潟市美術館の所蔵になっている。1945年、77歳で他界。

【川上貞奴】1871（明治4）年、東京の日本橋に生まれる。本名は、小山貞。15歳で芸者になった。1891年、川上音二郎と旗揚げし旅芸人一座を設立。貞奴は1899年、日本の女優第一号となりアメリカ、フランス、イギリス、ロシアで名声を博す。ピカソも魅了され、デッサン画を残している。音二郎死後、女優を引退した。その後、「電力王」福沢桃介とともに、名古屋市東区白壁町に二葉御殿を



川上貞奴（文化のみち二葉館（名古屋市旧川上貞奴邸）提供）

建て暮らした。現在は榑木町に移築復元され「文化のみち二葉館」として公開・利用されている。貞奴は絹布の紡績会社を設立し、「奴めいせん」「奴絹」のブランド名で生産した。一方、東京に「川上児童楽劇団」を発足した。1946年、75歳にて生涯を閉じた。

【三岸節子】1905（明治38）年、現在の愛知県一宮市に生まれる。淑徳高等女学校を経て、現在の女子美術大学へ進む。そこで三岸好太郎と出会い結婚する。しかし、29歳で死別してしまう。3人の子どもを育てながら、女性洋画家の先駆者として活動する。43歳に画家 菅野圭介と別居結婚をするが解消、49歳で初めて渡仏する。1999年に94歳の生涯を閉じるまで作品を描き、遺作になった「さいたさいたさくらがさいた」は不自由になった身体との壮絶な戦いと死との競争であった。この作品は一宮市三岸節子記念美術館に納められた。



三岸節子（1985年ヴェロンにて）

〈ロイ・フラー〉1862年生まれ。イサドラ・ダンカン以前にヨーロッパに渡って成功をおさめたアメリカ人ダンサー。長布を身体の周りで打ち振り、ひらひらと舞わせながら多彩色の照明をあてて、まるで光そのものが踊っているような幻影を作りだし、アールヌーボーの象徴となる。1890年代はガス燈から電燈に移りゆく頃であった。ムーランルージュでの踊り子でもあったが、ダンスをエンターテインメントから精神的な表現としてみる転換点を切り開き、イサドラ・ダンカンへの道をつけた。1928年、66歳で没。

近藤夕希代さん：「『うめ』の花ことは“厳しい美しさと忍耐”にイメージを重ねています。花子はロダンの彫刻のモデルとなった唯一の日本人女性です。花子の演技はヨーロッパ中を魅了し、ヨーロッパ各国の演劇人からはとても高い評価を得ていました。反対に日本国内ではその存在はあまり知られていません。渡欧して小柄な日本人女性が運命に流されることなく、毅然と生き抜く人生は波乱万丈でした。演技ではない自分の人生を必死に演じ、体当たりで挑む花子の想いや死の中に見た生きる力、日本人女性の心の内にあった『力の美』を表現したいです」。

3人の作者の舞踊化への取り組み

近藤夕希代さん：

「『うめ』の花ことは“厳しい美しさと忍耐”にイメージを重ねています。花子はロダンの彫刻のモデルとなった唯一の日本人女性です。花子の演技はヨーロッパ中を魅了し、ヨーロッパ各国の演劇人からはとても高い評価を得ていました。反対に日本国内ではその存在はあまり知られていません。渡欧して小柄な日本人女性が運命に流されることなく、毅然と生き抜く人生は波乱万丈でした。演技ではない自分の人生を必死に演じ、体当たりで挑む花子の想いや死の中に見た生きる力、日本人女性の心の内にあった『力の美』を表現したいです」。

倉知可英さん：「『つばき』は美しさを保ちながら枝から落ちる有り様に潔さと強さを感じます。強く逞しくその道で生きるしかなかった人生のなかで、なるべくして女優になった貞奴はイサドラ・ダンカンをも魅了し、華のある舞台表現者としてセンセーションを興したカリスマ



近藤夕希代さん

性を備えた芸者です。品格と芸を持ち波乱万丈の人生の中、女優の道を切り開いていく女性を表現したいです。また、女優だけの人生ではなく企業家として紡績会社の設立と今でいう児童劇団の育成など、現代に通じる女性の生き方に共感できます。重ねてイメージが膨らみます」。

服部由香里さん：「心うたれた1枚の大遺作『さいたさいたさくらがさいた』のなかに三岸節子の人生そのものを感しました。一生現役、一生探求、一生創作。女性であり母、画家として色褪せることなくひたむきに描き続けた節子を芸術の道を歩く自分と重ねて表現したいです。『さくら』の花びらは小さくて可憐、でも大地に根を張り、太い幹は何事にも動じず、満開のさくらを咲かせます。そのエネルギーと生命力の中に節子の心と情熱を感じます」と、3人の作者はそれぞれ熱く語った。



倉知可英さん

服部由香里さん：「心うたれた1枚の大遺作『さいたさいたさくらがさいた』のなかに三岸節子の人生そのものを感しました。一生現役、一生探求、一生創作。女性であり母、画家として色褪せることなくひたむきに描き続けた節子を芸術の道を歩く自分と重ねて表現したいです。『さくら』の花びらは小さくて可憐、でも大地に根を張り、太い幹は何事にも動じず、満開のさくらを咲かせます。そのエネルギーと生命力の中に節子の心と情熱を感じます」と、3人の作者はそれぞれ熱く語った。



服部由香里さん

新鮮でかつ個性豊かな舞踊を期待

先人たちが活動し生きた時代は明治から大正、昭和と日本が激動の社会状況中だった。波乱万丈といえ一言で済んでしまうが、女性への冷遇などと遭遇する闘いの中から己の華を美しく逞しく育てたことだろう。ロイ・フラーは花子をスカウトした時の印象で「この女優は美しく優雅で品があり、非常に個性があった。同じ日本人の中でも目立っていた」と語っている。内面の動きを身体の動きにかえてしまう花子の独特の身体言語は、芝居一座での長年の積み重ねで会得したと言われている。私はここに「華」を感じる。今、多様なダンスがあり、ボーダーレスが加速する舞踊界で真なる現代舞踊の個性と存在を明示されることと、会場となる円形劇場・千種文化小劇場の特異な空間に新鮮な表現と空気を充満させてくれることを期待している。

（参考文献）資延勲著「ロダンと花子」、レスリー・ダウナー著「マダム貞奴」、森田雅子著「貞奴物語」、吉武輝子著「炎の画家 三岸節子」、海野弘著「モダンダンスの歴史」

公演情報 3月16日(金)19:00、17日(土)15:00、19:00、18日(日)15:00(4回公演) 千種文化小劇場にて開催。料金は一般3,000円、高校生以下2,000円。問い合わせは、名古屋市文化振興事業団 TEL052-249-9387まで。

この人と...



劇団名古屋演出家

くぼた あきら 久保田 明さん 下

108の演出を支える、別れと出会いと

1968年、入団4年目にして初演出を皮切りに、劇団名古屋の専任演出として数々の作品を世に生み出していった久保田氏。インタビューの途中で久保田氏は「僕にはどこか二足の草鞋的な部分があってね」とつぶやいた。この謎の言葉にこそ、氏の魅力を探る鍵が隠されていた。昭和から平成へ、時代の荒波を久保田演出はいかに乗り越えてきたのだろうか。大げさに言えば、そこにはある意味、地方都市の芸術集団が学ぶべき、多くの示唆に満ちている。

(聞き手：はせひろいち)

「演出への専念」は自然な流れで

「奇しくも『演出だけ』という人間は僕しかいなかったんですね」と話す久保田氏。1968年の初演出以降の劇団体制をうかがった時のこと。少し粘って演劇人としての本音を尋ねると「劇団内の書き手として、しかたさんの他に熊谷昭吾さんがいました。実は僕の師匠筋に当たる熊谷さんの作風は、真摯で直截な『しかた作品』とは真逆な、ダイナミックで観念性のあるモノだった。彼のセリフの『品格』に直面し、僕は書くのを諦めた」。

さらに「では役者は？」と尋ねると「天野有恒さんにも刺激を受けたけど、それはやっぱり舟木淳さんかな」と眼の奥に懐かしさが漂う。「あれもしかた作品だった。舟木さんはいわゆるワキにあたる教授の役だったんです。主役の労働者を諭すセリフがあって、物語上はあくまで一つの対立意見なのに、舟木さんが演じると、説得力が明らかに勝ってしまうのね。『俳優の力』はここまでホンの持つテーマや思想すら上回ってしまうのだ、と痛感し僕は演ずることに別れを告げました」。

社会的なテーマを持った作品群に挑みつつも、舞台芸術の本質的な部分を、当時からバランス良く見据えている久保田演出の視線が感じられる。



名古屋市民芸術祭受賞「ブラジルの花嫁」(1991年)レセプション会場にて(前列右から2番目)

必然的な別れと「二人四脚」

近く創立55年を迎える劇団名古屋。巷で言われる「劇団の寿命」から鑑みれば驚くべき実績と歴史なのだが、決して無風だったわけでもない。そこには様々な必然的な別れがあった。

まず先述の天野氏が劇団を去り、児童文学作家でもあったしかた氏が劇団「うりんこ」の創設に向かう。さらに5年後の1979年、中心的な俳優・舟木氏が劇団名古屋を離れる。そして熊谷氏もまた名古屋劇団協議会(名劇協)に書き下ろした「娘たちの声が聞こえる」(1982年、演出：久保田氏)を境に劇団から距離を取る。普通なら心折れ、集団の崩壊にも直結しそうだが、むしろ劇団はプレヒトやミラー、岡部耕大に宮本研と、積極的にレパートリーを増やし、久保田氏自身も名劇協や「愛知私学をよくなる父母と教職員の集い」など市民組織の要請に応えての舞台演出の経験を積んでいく。

「劇団を去る、とはいえ皆それぞれの立場と距離でなにかしら繋がってくれていた。しかたさんも熊谷さんも、その後何本か書いてくれているし、養成所の指導もしてくれていた。舟木さんは一度も欠かさず観てくれている。



(演出作品) 坂手洋二作「海の沸点」(2000年)

皆きつと劇団名古屋の『継続』を誇りに思ってくれている」と久保田氏。ただの喧嘩別れではない、互いの道を尊重しあった上での別れが、むしろ劇団内外の絆を強くした。これこそ演劇の持つ懐の深さであり、大いに学ぶべきところだろう。そして、そんな激動の時代を、陰からだけでなく劇団の主演女優としても支えたのが、奥さんでもある「ごとうてるよ」さんの存在。「彼女はホンが読めてセリフが書けるから素敵ですね。リアリティーの尺度が共感できる人」なのだそうだが「どうも稽古になると上手いかな」と笑う久保田氏。演出と女優でありながら、



(演出作品) 港文化小劇場開館記念公演 山田太一作「早春スケッチブック」(1996年) この作品の演出で第1回松原英治・若尾正也記念演劇賞を受賞

劇団と生活を支えるパートナーであり続ける関係性は、当事者にしか判らない葛藤があるようだ。「互いに影響しあいつつ共存する…『2人4脚』が一番適した表現かな」。

作家との出会いを求め続ける柔軟性

右下の表は久保田氏が2000年以降手がけられた作品群である。演出作品の総力カウントでは80から108本目。劇団名古屋での作品を柱に年間平均3~4本、劇団以外の仕事も含め、実に精力的な数字である。また井上ひさし、小松幹生、栗木英章らベテラン作家のモノはもちろん、坂手洋二、古城十忍、小川未玲、辻本久美子、畑澤聖悟、野中友博ら、久保田氏にとっては明らかに「下の世代の作家たち」が名を連ねているのも特筆すべき点だろう。

「近年は特に、僕の中にも2つの方向性があるって、従来の直接的に時代が抱える問題を問うモノに加え、生活者の唄とでもいうのかな、決して変わり者ではない普通の生活を、そのまますくい取るような作品群。それを意識的にやっています。僕たちは『街・風・人びとと劇場』と呼んでます」と久保田氏。後者を代表するのが小川未玲、ふたくちつよし、高橋正國らの作品で、坂手作品などはむしろ前者。作家の世代と相関はしていない。ある意味、世代感から本当の意味で解放された視点だからこそできることなのだろう。この2つのベクトルのバランスこそが劇団名古屋の魅力でもある。冒頭で紹介した「二足の草鞋」の真意が見え隠りする。

「例えば反核・反戦や反差別を正面に据えたモノは是が非でも次の世代に繋げたい。だってこれは『運動』です。歴史的使命だと思うんです。一方、〈街・風…〉のジャンルは『暮らし』です。たとえ時代を中心からは遠くても『日々の営みや生活が、まんざら悪くもない』こともちゃんと伝えたい。



(演出作品) 小川未玲作「もやしの唄」(2005年)

舞台を通して。どちらも大切なんです」。

自然体で時代に向き合いながら、同時に息の長い静かな戦いを忘れない—そんな久保田氏の基本精神が垣間見られる。これは作・演出が同一人物で劇作家の世界観を担うのが集団の使命だったりする劇団では決して持てない姿勢。ある種の束縛から初手から解放されている劇団名古屋の「自由さ」「テーマにこそ重きを置いた柔軟さ」があって初めてできることかもしれない。

世代を越え、時代を見据えた静かな闘い

久保田氏は1977~2004年まで劇団代表を務め、今は後進(岩田史郎氏)にバトンタッチしている。「集団はぜひ僕の世代を乗り越えて行って欲しい」。1992年に熊谷氏がこの世を去り、しかた、天野両氏も近年亡くなった。陰ながら劇団名古屋を、そして久保田演出を支え続けた人たちが。久保田氏ご本人も4年前、脳梗塞で倒れられたが、抱えていた自劇団の公演までに復帰、今に至っている。

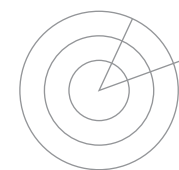
「家族の力を感じます。娘や息子、そして孫に伝えたいモノがあると思えました。この秋98歳になる妻の母親の介護から学ぶこともあります。何より自分がまだ『誰かの子ども』でいられる幸せも実感します」と久保田氏。最後に2011年という時代について尋ねてみた。久保田氏はやはり悪戯っぽく微笑んでこう結んだ。「今の社会の有り様は望ましいとは思えないが、僕のビジョンも甘かった。演劇を通じてもっと世の中を動かしていけると思ってた。でもね、まだ可能性はある。劇団という集団性に、まだ底力は残っていますよ」。

(了)

2000年以降の久保田氏演出公演リスト

日	時	タイトル	作家	主催等
2000年	6月	海の沸点	坂出洋二	劇団名古屋
	8月	銀河鉄道2000	栗木英章	反核舞台人の集い
	11月	泣き虫なまいき石川啄木	井上ひさし	劇団名古屋
2001年	6月	多すぎた札束	飯沢 匡	劇団名古屋
	7月	この子たちの夏	木村光一・編	愛知父母懇談会
	8月	原爆忘れまじ	栗木英章・編	グローバルピースフェス01
	12月	アンネの日記	ハケット夫妻	熱田文化小劇場開館記念公演
2002年	6月	闇に咲く花	井上ひさし	劇団名古屋
	11月	ごんには、母さん	永井 愛	劇団名古屋 名古屋市民芸術祭受賞
2003年	6月	とりあえずの死	藤田 博	劇団名古屋
	11月	風に紡ぐ -あいち織姫たちの青春-	栗木英章	名古屋市民芸術祭 主催事業・名劇協合同公演
2004年	5月	あした天気になあれ	ふたくちつよし	劇団名古屋
	11月	銀色の狂騒曲	高橋正國	劇団名古屋
2005年	6月	もやしの唄	小川未玲	劇団名古屋
	11月	美ら海(ちゅうらうみ)	栗木英章	劇団名古屋
2006年	3月	四日市ステーションホテル物語Ⅱ	成瀬光宏	四日市文化財団
	6月	R.P.G.	古城十忍	劇団名古屋
	11月	時の物置	永井 愛	劇団名古屋
2007年	5月	セメント樽の中の手紙 2007	吉村 登	劇団名古屋
	8月	戦争を知らない子ども達の子ども達	野中友博	反核舞台人の集い
	11月	ナース・コール	高橋正國	劇団名古屋
2008年	6月	明日 -1945年8月8日・長崎-	小松幹生	劇団名古屋
	11月	愛が聞こえます	高橋正國	劇団名古屋
2009年	6月	浮標(フイ)	三好十郎	劇団名古屋
	11月	稲垣親切堂	吉村 登	劇団名古屋
2010年	3月	はるかな声たちよ(名古屋文化振興費入選作)	辻本久美子	劇団名古屋
	7月	ハテルマ・ハテルマ	栗原 省	劇団名古屋
	11月	わが町・名古屋	はせひろいち	名古屋市民芸術祭 主催事業・名劇協合同公演
2011年	6月	親の顔が見たい	畑澤聖悟	劇団名古屋

ピックアップ



佐久島のアートを満喫!読者限定アートツアー

本誌8月号で募集させていただいた読者限定佐久島アートツアーが、9月13日に実施された。

佐久島は、三河湾のほぼ真ん中に位置する愛知県最大の島。人口約300人、高齢者の割合が50パーセントを超えるこの島が、近年「アートの島」として注目を集めている。島内のいたる所にアート作品が設置されているばかりでなく、定期的に企画展やワークショップが開催されているが、これは「祭り」と「アート」をテーマに島の活性化を図ろうと2001年から始められた「三河・佐久島アートプラン21」によるもの。島外から来たアーティストと島民が協働して、アートをはじめ伝統行事や歴史、自然といった島の魅力を発信している。とくに今年ACジャパンの地域キャンペーンCMに取り上げられたり、平成23年度緊急雇用創出事業基金事業「あいちの離島80日間チャレンジ!」で、東京都の新里碧さんが島の生活をマンガにしてブログにアップしていることでも話題を集めている。

ツアー参加者は20歳代から70歳代の39名で、そのほとんどが佐久島は初めてという方々。開催中の企画展「佐久島・土弘法」に出品されている作家のふるかはひでたかさんが同行してくださり、往路のバスの中では島の歴史や古墳についてお話しくだ

さった。

到着後は島内を徒歩で回りながら、企画展と常設作品15点、昨年の「佐久島弘法プロジェクト」で新設された建築家ユニットみかんぐみによる弘法大師像の祠2点を鑑賞。午後からツアーに加わっていただいたオフィス・マッチング・モウルの内藤美和さんからは、「三河・佐久島アートプラン21」に当初から関わってきた内藤さんだからこぞ知りうるエピソードの数々をお聞きすることができた。

島内には本誌4~6月号の表紙を飾った松岡徹さんによる作品も。ユニークな顔をした《海神さま》や《大和屋観音》がお地蔵さまのように島の景色に溶け込むさまや、南川祐輝さんによる体験型作品《おひるねハウス》の中に入って、吹き渡る潮風や遠浅の海が広がる風景を楽しんだ。

参加者からは「作品について話が聞けたのがよかった。また行きたい」「たいへん暑かったが海風が心地よく、島内を歩くのが楽しかった」という声が聞かれ、おおむね楽しんでいただけたようだ。今回は初めての読者参加企画で至らない点もあったかと思うが、「興味はあってもなかなか…」という方々が名古屋の文化・芸術に気軽に触れていただけるような機会を、今後も検討していきたい。(T)



《イーストハウス》では海と風を楽しんだ



《おひるねハウス》は参加者に大人気



ふるかはさんが「佐久島・土弘法」展を解説

名古屋市文化振興事業団 2012年企画公演 ミュージカル『シンデレラ』

名古屋市文化振興事業団では、毎年、地元で活躍する音楽・演劇・舞踊をはじめとする舞台人の総力を結集し、新しい可能性を追求する総合舞台芸術公演を開催しています。

28回目を迎える今回は、ミュージカル界の巨匠リチャード・ロジャースとオスカー・ハマースタインⅡ世によるミュージカル「シンデレラ」を上演します。

オーディションにより選ばれた出演者と生のオーケストラが、名作童話の世界を美しく楽しい音楽、賑やかなダンスシーンにのせてお贈りします。この機会にどうぞご来場ください。

上演台本・訳詞・演出/永井寛孝 音楽監督・指揮・編曲/中島良史
振付/高木順子 管弦楽/セントラル愛知交響楽団

日 時 2月17日(金) 18:30
18日(土) 11:00 16:00
19日(日) 11:00 16:00

会 場 青少年文化センター・アートピアホール [ナディアパーク11F]

料 金 S席4,000円(1F) A席3,000円(2F) 〈全指定席〉
※事業団友の会会員は1割引(前売のみ)

発売予定日 11月18日(金) 〈友の会先行発売11月16日(水)~17日(木)〉

助 成 芸術文化振興基金

問い合わせ 公益財団法人名古屋市文化振興事業団 TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386

【ストーリー】

継母といじわるな姉たちにこき使われ、ひどい仕打ちを受けているシンデレラ。二人の姉は王子の花嫁探しのために開かれる王宮の舞踏会に出かけます。留守番のために家に残されてしまったシンデレラが一人物思いにふけっていると、かわいそうに思った魔法使いが現れ、『必ず12時までに帰ること』を条件に彼女を美しい姿に変身させて舞踏会へと送り出してくれます。

すると、王子は舞踏会に招待された誰よりも美しいシンデレラに一目ぼれしてしまいます。二人が時間の経つのも忘れて踊っていると、無情にも12時を告げる鐘の音が鳴り響きます。シンデレラは慌てて帰る途中でガラスの靴を脱ぎ落としてしまっ…

■ロジャース&ハマースタイン版ミュージカル「シンデレラ」について

世界中で読み継がれている「シンデレラ」の物語。童話や絵本に留まらず、バレエやアニメなど様々なアレンジされ親しまれ続けており、1950年にアカデミー歌曲賞にもノミネートされたディズニーアニメ「シンデレラ」は特に有名です。

その7年後、「サウンド・オブ・ミュージック」「王様と私」「回転木馬」「南太平洋」をはじめとして、数々の傑作ミュージカルを世に送り出したリチャード・ロジャースとオスカー・ハマースタインⅡ世の名コンビがアメリカCBSテレビのために手掛けた作品が、今回のミュージカル「シンデレラ」です。

主演のシンデレラに「サウンド・オブ・ミュージック」のジュリー・アンドリュースを起用し、当時「生放送」で放映されたこの作品は全米で1億人以上の人が観たほどの大ヒットとなり、その後も数度に渡り舞台化され、今もお世界中で上演され続けています。



R.ロジャース(左)とO.ハマースタインⅡ世(右)



2008年企画公演「オズの魔法使い」



2009年企画公演「トーキー・トーキー」



2010年企画公演「海の向こうに」

文化小劇場 芸術三昧!シリーズ

「文化小劇場芸術三昧!シリーズ」は、名古屋市内各区にある文化小劇場を会場とし、質の高い公演を地域の方々に身近に気軽に鑑賞していただけます。生の芸術の感動・素晴らしさに触れていただき、地域文化の振興に寄与したいと考え実施いたします。上期に続き下期6公演も多彩なラインナップです。

☆問い合わせ ナディアパークプレイガイド TEL 052-265-2015

想造舎マイムボックス「おしゃべりなカラダ」

壁などないのに、壁があるように見えるのはどうしてだろう?椅子がないのに、座りたくなるのは、どうしてだろう?動きやしぐさで想像力がフル回転、言葉のない舞台からセリフが聞こえてきます。一緒にマイムを楽しみましょう。

日 時 1月14日(土) 14:00
 会 場 天白文化小劇場
 料 金 シングル1,500円
 ペア 2,800円(全指定席)
 ※未就学児の入場可 ※3歳以上有料
 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



劇団離風霊船「STATION」

1983年の結成以来、常にユニークな発想と奇想天外な舞台仕掛けで注目を浴びている劇団離風霊船。座付き作家、大橋泰彦が「命」という壮大なテーマを、大橋独特のひねりのきいた視点で、とある駅を舞台にえがき、生かされた者たちへのエールを贈ります。

日 時 1月15日(日) 14:00、18:00(2回公演)
 会 場 中村文化小劇場
 料 金 3,000円(全指定席)
 ※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



栗コーダーカルテットコンサート アンコール公演

NHK教育テレビ「ピタゴラスイッチ」でおなじみの栗コーダーカルテット。それぞれに作編曲家そして演奏家の顔を持つ四人が、何故かリコーダーを携えて活動を開始。ウクレレや身近な楽器を使った脱力系バンドの彼らの音楽が、今や頻りにメディアで流れています。

日 時 1月22日(日) 15:00
 会 場 西文化小劇場
 曲 目 ピタゴラスイッチ オープニングテーマ、ペジエ、羊どろぼう、アパオの海外出張 他
 料 金 3,000円(全指定席)
 ※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



いちむじんギターコンサート

NHK大河ドラマ「龍馬伝」紀行や映画「沈まぬ太陽」など数々のテレビ・映画のBGMを担当している、高知県出身の新世代ギターデュオ。「いちむじん」は土佐弁で一生涯懸命。クラシックの枠にとらわれず、和のテイストを取り入れたスタイルが魅力です。

日 時 2月2日(木) 18:30
 会 場 名東文化小劇場
 曲 目 NHK大河ドラマ龍馬伝紀行テーマ曲 月の光、かけら、情熱大陸、ジョンゴ 他
 料 金 3,000円(全指定席)
 ※未就学児の入場はご遠慮ください。
 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



三村奈々恵マリンバコンサート

三村奈々恵は国立音楽大学打楽器専攻を首席卒業後、渡米。ポストン音楽院にて修士号を取得。音楽の最高峰パーカー音楽院で講師を務めた経歴を持ちます。また、数々の国際コンクールで優勝を重ねました。この世界的マリンピスト三村奈々恵が出生地の愛知で演奏します。

日 時 2月10日(金) 18:30
 会 場 熱田文化小劇場
 曲 目 バレエ音楽「ガイーヌ」より「レズギンカ」「剣の舞」、プラーナ、リベルタンゴ 他
 料 金 3,000円(全指定席)
 ※未就学児の入場はご遠慮ください。
 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



三浦一馬バンドネオンコンサート

10歳でバンドネオンと出会い、第33回国際ピアノ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝。「驚くべき才能、演奏技術、感受性、情熱。彼には音楽家として輝かしい未来が約束されている」と巨匠ネストル・マルコーニに言わしめた若きバンドネオン奏者です。

日 時 2月18日(土) 16:00
 会 場 千種文化小劇場
 曲 目 アディオス・ノニーノ、現実との3分間、オブリヴィオン、さよならのワイン 他
 料 金 3,000円(全指定席)
 ※未就学児の入場はご遠慮ください。
 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



写真提供:ピクチャーエンタテインメント社

舞台VTR映像専科
 ステージの感動を格調高い映像で追求します。

有限会社 **エーワン・ビデオ・システム**
 TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100

TOKAI VIDEO SYSTEM

ハードシステム部門
 AV機器販売部門(家庭用)
 映像企画・制作部門
 放送関連部門
 機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る
 生きた情報を発信

TVS 株式会社 東海ビデオシステム
 名古屋市中区上筒井二丁目14-15 TEL.<052>322-6541(代表) 6562(芸能部)

innovason Ether LACOUSTIC ES lake whirlwind

■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守

AV 株式会社エーアンドブイ
 〒464-0846
 名古屋市中区千種区城本町二丁目98
 TEL.052(761)5400
 FAX052(761)0909

市内のイベントを検索!

ナゴヤアートナビ

▶ <http://www.art758.jp>

「ナゴヤアートナビ」ウェブサイトでは市内の文化施設のさまざまな催し物をご紹介します。ぜひアクセスしてお出かけください!

掲載情報もお待ちしています。
 ホームページからお申し込みください。

問い合わせ 名古屋市文化振興事業団
 TEL 052-249-9385

ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい!

名古屋市文化振興事業団「友の会」会員大募集

エンジョイコース(年会費3,000円)
 ・事業団主催公演や提携事業のチケット割引!
 ・情報満載の「友の会だより」などを毎月お届け!
 ・提携ショップでのお買い物の優待割引!
 ・会員の皆さまが参加できるイベント開催!など

クリエイティブコース(年会費15,000円)
 上記エンジョイコースに加え、次の特典も受けられます。
 ・会員主催の公演ラジを事業団施設に無料配布!など

詳しくは、事業団「友の会」事務局まで TEL 052-249-9385

「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人(相山女学園大学文化情報学部教授)
 小沢優子(名古屋音楽大学講師)
 倉知外子(オクダモダンダンスクラスター副代表)
 酒井晶代(愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)
 田中由紀子(美術批評/ライター)
 はせひろいち(劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。